

都道府県名

石 川 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	志雄町立志雄小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	2	2	2	1	11	17
児童数	40	43	35	44	48	49	1	260	

研究の概要

## 1. 研究主題

確かな学力を身につけ、生き生きと学習する子の育成  
- 見方・考え方を高める算数的活動を通して -

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

・全学年・算数  
習熟度別少人数授業による個に応じた指導方法の工夫・改善に努めて4年目にあたる。

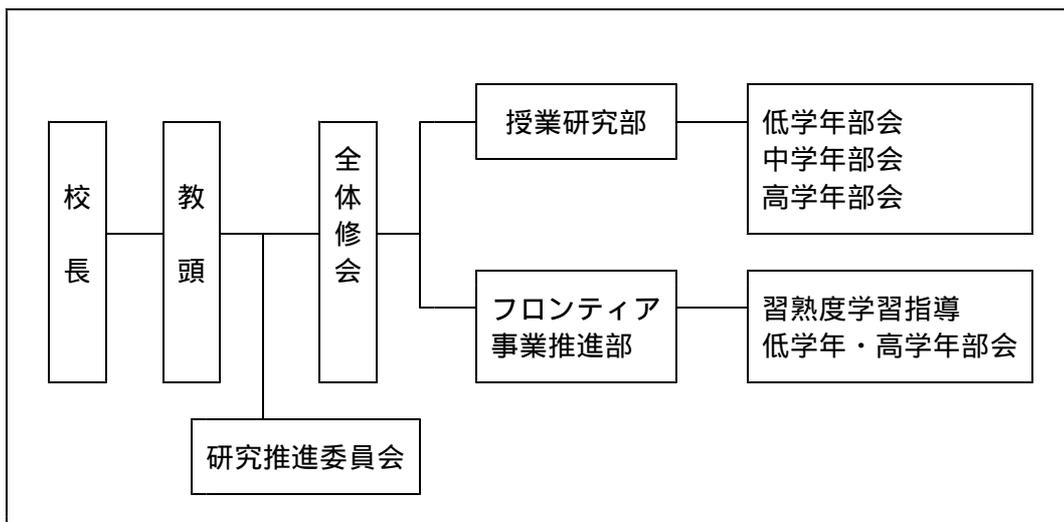
## (2) 年次ごとの計画

平成15年	<p>テーマ 確かな学力を身につけ、生き生きと学習する子の育成 - 見方・考え方を高める算数的活動を通して -</p> <p>研究の見通し 「確かな学力」の向上をめざし、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を学校教育全体の中で図る。中でも算数科を学校研究の中核にすえ、少人数指導の推進及び基礎・基本の定着のための指導の工夫、評価を生かした指導の工夫に取り組むことで、指導方法の改善，工夫を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>算数科において習熟の程度に応じた指導を中心としながらも、課題別指導や興味・関心別指導などの個に応じた学習指導を取り入れ、多様な指導法を実践することを通して、学力の向上のための有効な指導法の改善に取り組む。</li> <li>学習集団に応じた発展的な学習及び補充的な学習の教材開発や指導の工夫を図り、個に応じた指導を展開し、学力の向上をめざしていく。</li> <li>学力の定着度を測り、それぞれの児童に応じた指導を徹底するために、年度末に本校独自に算数科における「学力調査」行う。</li> <li>「学力調査」をもとに、各学年において達成すべき数値目標を設定し、目</li> </ol>
-------	---

	<p>標達成のために効果的な指導法や教材の工夫を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 学校評価（内部・外部評価）を行うことによって、指導法の工夫改善、教育目標達成等のための組織的な取組ができるように、学校組織を改善する。</li> <li>6 指導法の改善を図るため、大学等の外部講師を積極的に招聘し、指導を受ける。</li> <li>7 朝の学習指導や放課後の学習指導のための特設時間を設けることにより、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>8 授業公開・学校通信，あるいはホームページ等を通じて地域に少人数学習の有効性を発信し，開かれた学校づくりを行う。</li> </ol>
--	---

平成16年	<p>テーマ 確かな学力を身につけ，生き生きと学習する子の育成 - 見方・考え方を高める算数的活動を通して（二年次） -</p> <p>研究の見通し 「確かな学力」の向上をめざし，児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を学校教育全体の中で図る。そのために，算数科における少人数指導の推進及び基礎・基本の定着のための指導の工夫，評価を生かした指導の工夫に取り組むことで，指導方法の工夫・改善を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 算数科において習熟の程度に応じた指導を中心としながらも，課題別指導や興味・関心別指導などの個に応じた学習指導を取り入れ，多様な指導法を実践することを通して，学力の向上のための有効な指導法の改善に取り組む。</li> <li>2 学習集団に応じた発展的な学習及び補足的な学習の教材開発や指導の工夫を図り，個に応じた指導を展開し，学力の向上をめざしていく。</li> <li>3 学力の定着度を測り，それぞれの児童に応じた指導を徹底するために，年度末に本校独自に算数科における「学力調査」を行う。</li> <li>4 「学力調査」をもとに，各学年において達成すべき数値目標を設定し，目標達成のために効果的な指導法や教材の工夫を行う。</li> <li>5 学校評価（内部・外部評価）を行うことによって，指導法の工夫改善，教育目標達成等のための組織的な取組ができるように，学校組織を改善する。</li> <li>6 指導法の改善を図るため，大学等の外部講師を積極的に招聘し，指導を受ける。</li> <li>7 朝の学習指導や放課後の学習指導のための特設時間を設けることにより，基礎・基本の定着を図る。</li> <li>8 バランスのとれた学力をつけるために，国語科において読書指導に力を入れるとともに，朝の読書運動を全校で推進する。</li> <li>9 「学習ボランティア」や「地域の先生」を導入し，さらに，きめ細かい指導を展開するとともに，地域と一体となって児童の学力の向上を図る。</li> <li>10 授業公開・学校通信，あるいはホームページ等を通じて地域に少人数学習の有効性を発信し，開かれた学校づくりを行う。</li> </ol>
-------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

本年度の取組の成果として次のことが挙げられる。

1 習熟度別少人数学習の肯定的受け入れ  
3年生以上の児童に下記のようなアンケートを行った。

	平成14年度	平成15年度
(1) 授業は良く分かる		
3年生	86%	100%
4年生	91%	100%
5年生	66%	100%
6年生	68%	95%
(2) 発言や発表がしやすい		
3年生	95%	100%
4年生	95%	78%
5年生	66%	100%
6年生	54%	91%
(3) 詳しく教えてもらえる		
3年生	86%	100%
4年生	83%	91%
5年生	58%	100%
6年生	59%	95%
(4) 少人数が楽しみ		
3年生	90%	100%
4年生	54%	60%
5年生	33%	86%
6年生	13%	62%

ほとんどの児童は平成14年度から15年度と学年が上がるに伴って、習熟度別少人数学習を肯定的に受け入れており、学習を楽しみに待つ児童の姿が伺える。

2 基礎・基本の時間の定着  
朝の「志雄タイム」、放課後の「さくらタイム」において、学習の定着を図ってきた。特に、朝の志雄タイムでは、児童が自ら課題意識を持ち、自分に合

った学習プリントを選び学習に取り組むようにしてきた。毎朝、自らの課題意識を持ち学習に取り組むことを続けることにより、「志雄タイム」において、児童の主体的な姿が多く見られるようになってきた。毎日、静かな自学タイムからスタートしており、一日の学校生活の始まりにふさわしいものとなってきているとともに、学習に対する姿勢及び学習内容の定着が見られるようになってきている。

### 3 共通の課題意識による学習

日常生活や他教科との相互関連を図る「クロスカリキュラム」の実践研究に取り組んでいる。日常生活や他教科に見られる算数的内容・問題と関連づけた課題を設定したり、あるいは逆に算数科で学んだことを日常生活や他教科に発展させたりすることで、算数科をより生活に密着した「生きて働く学力」となるよう工夫・改善に努めている。

このことにより、日常生活や他教科との相互関連が可能となり、算数科学習の意義が深まると共に、他教科や日常生活等との共通課題から出発するため、児童の学習意欲も高まってきている。

## 2 . 今後の課題

### 1 習熟度別少人数学習と主体的学習について

習熟度別少人数学習を進めてきており、そのよさについては、児童、保護者、教師とも実感している。保護者の中には、全教科で実施できないものかといった要望まで出てきている。今後は、算数科における習熟度別少人数学習で身につけた学習への取り組む姿勢や興味・関心及び学習方法等を、他教科でも生かせるよう、全校的に主体的学習の定着とその展開のあり方をさらに研究していく必要がある。

### 2 他教科との関連について

学習したことが、より身近なものとなり、学習の価値が実感できるようにと取り組み始めたクロスカリキュラムの実践は、一定の成果を挙げることができた。今後は、各教科のねらいをしっかりとふまえながら、算数科との相互関連が一層明らかになる教育課程の編成に努めたい。

### 3 内部評価・外部評価より

意欲的・主体的な学習態度が育ちつつあるが、これをさらに一層高めるには家庭とのより密接な連携が必要である。学校評価の結果をふまえつつ、基本的な生活習慣の定着や望ましい家庭学習のあり方についても共通理解を図る努力を重ねたい。

### 4 学力調査について

毎年2月に予定しているため、昨年度との比較はまだ実施できていないが、結果分析し次年度の取組の重点としていく。

## 学力等把握のための学校としての取組

1時間毎の評価規準を設けてその都度対応するとともに、児童の算数科における学習状況の把握のために、毎年2月に全校一斉に学力調査を行う。各領域をより客観的に分析し、今後の取組の重点とする。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 平成16年2月4日(水)フロンティア推進事業中間発表会  
対象 地域の学校, 保護者, 地域の方々  
内容 全学年授業公開 1年間の研究成果と課題
- \* 平成16年6月11日(金)フロンティア推進授業発表会  
対象 地域の学校, 保護者, 地域の方々  
内容 全学年授業公開 研究成果と今後の課題, 講演会
- \* 研究成果普及のためのHP作成(平成16年4月:発信予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】       6学級以下       7～12学級  
                         13～18学級       19～24学級  
                         25学級以上
- 【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導  
                         一部教科担任制      その他
- 【研究教科】      国語      社会       算数      理科  
                         生活      音楽      図画工作      家庭  
                         体育      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無